

見守り 新鮮情報

金属製の**湯たんぽ**をタオルなどで3重に巻いて**足の下**に置いて**就寝**していたら、左足のくるぶしがひりひりして**やけど**していた。

(60歳代 女性)



©Kurosaki Gen

重症に
なることも

湯たんぽによる
低温やけどに注意

ひとこと助言



- 低温やけどは、心地よく感じる程度の温度のものでも、皮膚の同じ部分に長時間接触することで発生します。湯たんぽの種類に関わらず発生するおそれがあり、状況によっては重症化することもあるので、注意が必要です。
- たとえ、タオルやカバーで包んでいても、湯たんぽを長時間身体に接触させると低温やけどになるおそれがあります。
- 特に就寝中の低温やけどを防ぐために、湯たんぽは布団を暖めるのみに使用し、布団が暖まったら湯たんぽを取り出して就寝しましょう。
- 低温やけどは、見た目より重症の場合があります。痛みや違和感があるときは、すぐに医療機関を受診しましょう。